

第44回



日本循環制御医学会

総会・学術集会 The 44th Annual Meeting of Japan Society
of Circulation Control in Medicine

スポンサードセミナー1

2023年6月30日(金)

17:00~17:50

第1会場 (3階 サファイア)

アートホテル弘前シティ

〒036-8004 青森県弘前市大町1-1-2

周術期循環管理の質を考える

座長

田中 克哉 先生

徳島大学医学部 麻酔・疼痛治療分野 教授

演者

平田 直之 先生

熊本大学大学院生命科学研究部 麻酔科学講座 教授

共催

第44回日本循環制御医学会総会・学術集会
丸石製薬株式会社

第44回



日本循環制御医学会

総会・学術集会 The 44th Annual Meeting of Japan Society
of Circulation Control in Medicine

スポンサードセミナー 1

周術期循環管理の質を考える

術中低血圧が周術期臓器傷害や予後と関連することを示すエビデンスが集積し、周術期循環管理が最近改めて注目されている。特に、高侵襲手術や術前から心血管系合併症を有する高リスク患者では、血行動態変動による周術期臓器傷害リスクが高まることから、酸素需給バランス意識した循環管理が求められる。末梢循環灌流と酸素需給バランスを保ち、臓器機能を維持する一つの手段として、動的指標を用いた目標指向型輸液管理が挙げられる。目標指向型輸液管理は、周術期循環管理の質の向上に寄与すると考えられるが、患者自身が周術期循環管理の質の高さを”実感”することは少ないかもしれない。

手術患者を対象とした「周術期に回避したい事象」に関する調査において、回答として最も多かったのは術後嘔吐・嘔気であり、その割合は術後痛を上回っていた。無論、「周術期低血圧」と回答する患者はいない。周術期医療の質の向上を指向し、安全性や予後の更なる改善を目指した循環管理は重要であるが、それと同時に患者自身が実感できる術後の質向上を考慮する必要がある。患者が実感できる術後の質向上のためには、術後嘔気嘔吐対策が欠かせない。対策として吸入麻酔薬やオピオイドの使用を最小限にし、制吐薬を使用することが基本であるが、覚醒時の血圧適正化も重要である。最近の研究では、術中低血圧が術後嘔気嘔吐と関連することが示されている。また、術後嘔気嘔吐による不快感は交感神経活動亢進による酸素消費量の増加を生じ、心血管イベントのリスクとなる可能性がある。

本講演では、周術期循環管理の質をテーマとして、麻酔科医が目標とする質の高い循環管理と手術患者が実感できる術後の質との関わりについて論考したい。

共催

第44回日本循環制御医学会総会・学術集会
丸石製薬株式会社